

山陽小野田市立山口東京理科大学

F D活動報告書

【令和4年4月から令和5年3月】

令和5年6月

山陽小野田市立山口東京理科大学

F D委員会

本学のファカルティ・ディベロップメント（FD）の取り組み

山陽小野田市立山口東京理科大学

FD委員長 和田 光弘

山陽小野田市立山口東京理科大学は、地方都市における落ち着いた教育環境のもと、学校法人東京理科大学との姉妹校関係を維持強化しつつ、薬工系の基礎的知識と専門的な学術を教育・研究するとともに、地域に根差し、地域社会の発展に寄与する「地域のキーパーソン」の育成に貢献することを目的としています。

FD（Faculty Development）活動とは、教員が授業内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究の総称で、大学設置基準第25条の3においてその活動が義務化されています。独立行政法人大学改革支援・学位授与機構によると、FDの具体的な例として、教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の開催、教員のための研修会の開催等が挙げられています。

本学におけるFDの取り組みは、設立母体である山陽小野田市が設定した中期目標（2016～2021年度）において、教育研究等の質の向上に関する目標の一つとして「教員の教育能力向上の推進」が提示されています。本学では、この目標を達成するための措置として、中期計画（2016～2021年度）に、

① 教員の教育能力向上の推進大学及び大学院の教育の内容及び方法の改善を図るための教員の組織的な研修（FD活動）を計画的に実施する。

② 教育方法の工夫・開発

を掲げて、年度計画に落とし込み、FD活動を推進しました。

この活動報告書では、本学が中期計画及び年度計画に基づいて令和4年度に行いましたFDの取り組みを紹介いたします。

目 次

本学のファカルティ・ディベロップメント（F D）の取り組み	巻頭
I. F D委員会の概要と構成	1
II. 教授方法・教育内容・手段等の点検及び改善に関すること	3
1 授業観察	3
2 研究授業	4
3 アクティブ・ラーニングの促進	5
III. 授業評価の実施に関すること	7
1 学生による授業評価アンケート	7
2 教育効果の自己点検評価	19
3 成績不振学生の早期発見・早期ケア	20
IV. 教育課程及び授業内容の点検・改善に関すること	23
1 教育課程の体系化	23
2 学習成果の可視化	23
3 シラバスの点検	24
4 教育課程の改訂と授業科目の見直し	25
V. F Dに関する講演会・研修会等に関すること	27
1 F D研修会	27
2 東京理科大学・山口東京理科大学合同F D研修会	28
VI. その他F Dに関すること	29
1 単位の実質化	29
2 G P A	31
3 情報教育の支援	34
4 学習管理システムの活用	35
○ 山陽小野田市立山口東京理科大学F D委員会規程	36
○ F D委員会構成員	37

I. F D委員会の概要と構成

(1) 目的と活動内容

F D委員会は、学長の諮問機関として、「教育の改善及び教授技能の向上に関し、組織的な調査及び研究を実施し、本学の教育の質的向上に貢献すること」を目的として、以下の5点を、主な活動内容としています。

- ① 教授方法、教育内容・手段・環境等の点検及び改善に関すること。
- ② 授業評価の実施に係る企画・運営に関すること。
- ③ 教育課程の点検及び改善並びに調整に関すること。
- ④ F Dに関する講演会及び研修会等に関すること。
- ⑤ その他F Dに関する事項

(2) F Dの定義

F D委員会では、F Dを次のいずれかに該当する組織的な取り組みの総称として定義しています。

- ① 教員を対象に、授業内容・方法を検証・改善し、向上する取り組み
〔例〕 授業評価アンケート、授業観察、研究授業
- ② 学部・学科を対象に、教育課程の検証・改善に関する取り組み
〔例〕 シラバスの点検・改善、アセスメントテスト、学修ポートフォリオ
- ③ 教員を対象に、教育を行う上での意識を向上するための取り組み
〔例〕 F D研修会

(3) 構成

F D委員会は、次のメンバーをもって組織しています。学長は、F D委員会の会議に出席して意見を述べるができるものとしています。

- ① 学部長
- ② 学科主任
- ③ 共通教育センター長
- ④ 研究科長

(4) 委員会開催状況

令和3年度のFD委員会の開催日程及び議題は次のとおりです。

	開催日	議 題
第1回	5月25日（水）	令和4年度 授業アンケートの実施について 令和4年度 授業観察及び研究授業の日程について 令和4年度 FD研修会の開催について
第2回	6月30日（木）	令和4年度 FD研修会の開催について 授業アンケートの質問事項等について
第3回	7月28日（木）	令和4年度 FD研修会の開催について 令和4年度 授業観察結果及び研究授業報告書について
第4回	9月22日（木）	令和4年度 前期授業アンケート結果について 授業アンケートの質問事項等について 第2回FD研修会について 令和4年度 第1回FD研修会の実施報告について 令和4年度 前期授業観察及び研究授業自己点検について 令和4年度 後期研究授業について
第5回	10月27日（木）	授業アンケートの質問項目等（オンライン全般）について FD活動報告書について 令和4年度前期授業アンケート教育改善報告書について 大学リーグやまぐちFD・SD講演会について
第6回	12月22日（木）	TA研修会の実施について シラバスの更なる充実に向けた改善案について 学習成果の可視化及び科目接続の点検について
第7回	1月26日（木）	次年度に向けた教育プログラムの点検について 令和4年度 後期研究授業報告書について 令和4年度 第2回FD研修会の実施報告について 令和4年度 東京理科大学薬学部合同研修会について 大学コンソーシアム京都他外部FD研修会について
第8回	3月23日（木）	令和4年度 後期授業アンケート結果について 令和5年度 TA研修会について 新任教員研修会について 令和4年度 後期研究授業自己点検について

Ⅱ. 教授方法・教育内容・手段等の点検及び改善に関すること

1 授業観察

教育活動の中核である授業を教員同士が観察・点検する「授業観察」を実施しています。これは、各教員が自らの授業を他の教員に公開し、互いの授業を観察し、評価し合うものです。授業の進め方や教え方は適切であるか、授業はシラバス通りに進められているか、学生からの要望事項を取り入れ授業の改善を行っているか、授業法改善に取り組むべき点はないか等について点検・評価を行い、教育の持続的な改善・向上に取り組んでいます。

(1) 授業観察点検・評価基準

山陽小野田市山口東京理科大学授業観察点検・評価基準

基準 1. 授業の技法

- (1) 声の大きさ・マイクの使い方は適切か。
- (2) 板書や PPT などは読みやすく整理されているか。
- (3) 講義の速さは適切か。(板書、PPT の画面切り替えなど)
- (4) 教材の活用など、分かりやすくするための工夫をしているか。
- (5) 重要なところを強調しているか。
- (6) 学びやすい雰囲気・環境をつくるように努めているか。

基準 2. 授業の内容

- (1) 講義内容は、シラバスの概要や達成目標に沿っているか。
- (2) 講義内容について、科目全体からの位置づけを行っているか。
- (3) 講義内容の順序は論理的か、工夫されているか。
- (4) 1 コマの内容として、量的に適切か。
- (5) 他科目との関連がある場合に、その関連に言及しているか。

基準 3. 質問への対応

- (1) 学生からの質問を受け付ける機会を設けているか。
- (2) 学生からの質問に対して、丁寧に、かつ熱心に答えているか。

基準 4. 学生の行動

- (1) 学生は授業に集中し、注意深く聴いているか。
- (2) 学生はノートをとっているか。

(2) 授業観察の実施状況（令和4年度）

令和4（2022）年度 授業観察科目・日程

[前期]

曜日	時限	科目名	対象	授業担当	観察者（FD委員）	教室	授業観察期間
火	3.4	生命物理化学	2PP	田所 高志	◎和田 光弘 白石 幸英	713	～7月22日（金）

2 研究授業

教員相互の授業観察結果と、学生による授業評価が高い授業を半期毎に選定し、教員が授業を参観するとともに、授業担当教員と参観教員との意見交換・ワークショップを行い、優れた教授法と教育技能を教員間で共有する「研究授業」を行っています。各教員が独自に工夫・蓄積した授業方法を共有することで、相互の授業改善に役立てています。

(1) 研究授業の実施状況（令和4年度）

令和4（2022）年度 研究授業科目・日程

[前期]

曜日	時限	科目名	対象	授業担当	授業参観者		教室	研究授業開催日	意見交換会 実施日時・教室
					FD委員	学科等推薦者			
水	5.6	生命と環境	1～3 AM AE	木村 良一	◎堤 千佳子	笠置 映寛 宇野 直士	210	6月15日（水）	6月15日（水） 14時40分～15時30分 1号館 第2小会議室
火	7.8	機械計測学	2AM	大塚 章正	◎結城 和久	吉田 和司 海野 徳幸	5106	6月21日（火）	6月21日（火） 16時20分～16時50分 5号館 アタリブ・ラーニング 室1
金	3.4	ネットワーク概論	3AE	山本 眞也	◎井上 啓	柁川 一弘 合田 和矢	5102	7月1日（金）	7月1日（金） 12時10分～12時40分 5号館 5102教室
金	3.4	有機合成化学Ⅱ	3AK	北條 信	◎白石 幸英	太田 雄大 岩館 寛大	5106	6月3日（金）	6月3日（金） 12時10分～12時40分 5号館 第1ゼミ室
火	9.10	医薬品情報学	4PP	恵谷 誠司	◎武田 健	田所 高志 野田 泰裕	711	6月21日（火）	6月21日（火） 18時00分～18時30分 7号館 ゼミ室3

〔後期〕

曜日	時限	科目名	対象	授業担当	授業参観者		教室	研究授業開催日	意見交換会 実施日時・教室
					FD委員	学科等推薦者			
金	7.8	心理学	1～3 ALL	福田 みのり	◎堤 千佳子	田島 弥生 風早 悟史	210	11月4日（金）	11月4日（金） 16時20分～17時00分 2号館 210教室
木	3.4	プログラミング演習Ⅱ	2AM	結城 和久	◎白石 幸英	吉村 敏彦 千葉 良一	CP 実習室	10月6日（木）	10月6日（木） 12時15分～12時45分 5号館 777「アクティブラーニング」室1
水	1.2	科学英語・発表技術	3AE	高頭 孝毅	◎井上 啓	庵本 光弘 大嶋 伸明	5102	11月2日（水）	11月2日（水） 10時40分～11時10分 5号館 第1ゼミ室
水	1.2	物理化学Ⅱ	2AK	井口 眞	◎白石 幸英	星 肇 池上 啓太	5106	11月30日（水）	11月30日（水） 10時40分～11時10分 5号館 第1ゼミ室
月	7.8	生薬学2	2PP	田中 宏幸	◎和田 光弘	今堀 大輔 高田 誠	713	9月26日（月）	9月26日（月） 16時30分～17時00分 7号館 ゼミ室2

3 アクティブ・ラーニングの促進

アクティブ・ラーニング（Active Learning）とは、教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称です。

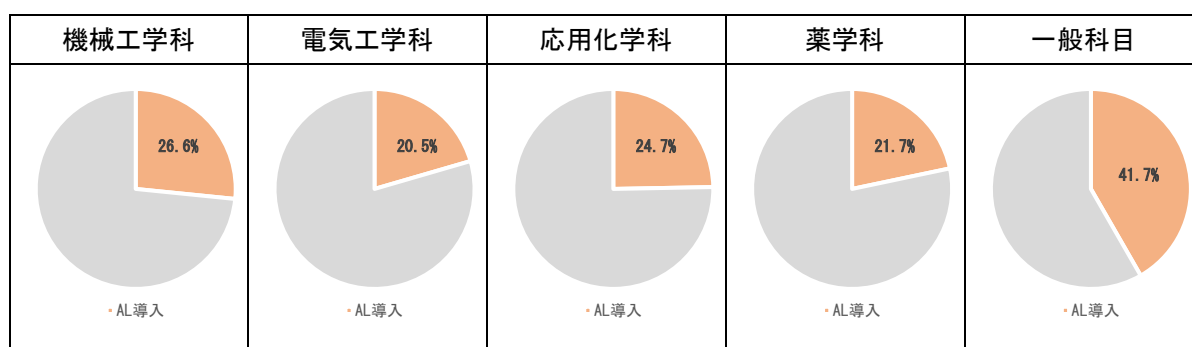
平成24年8月の中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」において、アクティブ・ラーニングの導入が必要と考えられる理由として、「生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材は、学生からみて受動的な教育の場では育成することができない。従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換が必要である。」としています。

本学では、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、問題解決学習、調査学習、ディベート等、能動的な学修への参加（アクティブ・ラーニング）を促す教育方法を取り入れた授業科目の割合を増やし、教育の質的な転換を図る取り組みを行っています。

令和元年度は、アクティブ・ラーニング実施率15%以上とする年度計画の目標を掲げ、26.3%以上の授業において、講義形式で行っている授業に能動的学修力の育成に効果的な教育手法を取り入れ、令和3年度も実施状況を確認しました。また、令和5年度より薬学部シラバスにおいて、アクティブ・ラーニングに関する記載項目を設け、実施状況の把握並びに学生への周知を図ることとしております。

(1) アクティブ・ラーニング導入率

学部	学科	開講科目数	A L 導入 科目数	A L 導入率
工 学 部	機 械 工 学 科	64	17	26.6%
	電 気 工 学 科	73	15	20.5%
	応 用 化 学 科	77	19	24.7%
薬 学 部	薬 学 科	46	10	21.7%
一 般 科 目		48	20	41.7%
合 計		308	81	26.3%



Ⅲ. 授業評価の実施に関すること

1 学生による授業評価アンケート

本学の教育内容に関する具体的な課題を顕在化し、教育改善に向けた取り組みの更なる質向上を実現することを目的に、授業評価アンケートを実施しています。授業評価アンケートの結果は開示され、学生は学習管理システムUNIPAから確認することができます。

(1) 授業アンケート項目

【～令和4年度前期】

山陽小野田市立山口東京理科大学授業アンケート項目

○あなたが、この科目を受講して

- 問 1 この授業によく出席した
- 問 2 この授業のために予習、復習、質問などをして意欲的に取り組んだ
- 問 3 授業内容をよく理解できた
- 問 4 この授業内容に興味がもて学習意欲が増した

○教員の授業の進め方や教え方について

- 問 5 シラバスの記載どおりに講義は進められた
- 問 6 授業に対する教員の熱意を感じた
- 問 7 教員は学びやすい雰囲気・環境をつくるように努めていた
- 問 8 授業は学生の理解度を考慮しながら進められた
- 問 9 重要なところを強調して授業が進められた
- 問10 教科書、参考書、プリントなどは授業の内容を理解するうえ
- 問11 板書の仕方、スライドの使い方は適切であった
- 問12 声の大きさ・マイクの使い方は適切であった
- 問13 質問に対する教員の対応は適切であった

○全体的にみて

- 問14 この授業によい印象を持った
- 問15 この授業で印象に残った授業内容・項目・言葉・授業で改善してほしい点、教育施設・設備の利用方法、そのほかの授業でうけた感想などを自由に書いてください。

○モデルコアカリキュラムについて（薬学部のみ）

- 問16 シラバス記載の薬学モデルカリキュラムに沿って授業が進められた

○遠隔授業又は遠隔・対面併用授業について

- 問17 板書・講義内資料は見やすかった
- 問18 授業の進行スピードは適切であった
- 問19 質問は容易にできたか
- 問20 音声は聞き取りやすかったか
- 問21 集中して授業を視聴できたか
- 問22 講義の録画は見直したか
- 問23 今後もこの形態で授業をしたほうが良いと思うか
- 問24 対面と比べて質問しやすかったか
- 問25 目の疲れや視力の低下があったか
- 問26 生活のリズムが崩れたと思うか
- 問27 感染症拡大の現時の状態下における授業実施形態として何が適切だと思うか
- 問28 次学期以降の基本的な授業実施形態として何が適切だと思うか

【令和4年度後期～】

山陽小野田市立山口東京理科大学授業アンケート項目

○あなたが、この科目を受講して

- 問 1 授業の欠席回数
- 問 2 欠席した主な理由
- 問 3 授業の選択や予習復習などにシラバスを活用した
- 問 4 授業の達成目標や成績評価基準を把握していた
- 問 5 質問をする、意見を述べるなど、授業に積極的に参加した
- 問 6 予習復習や課題のために、1回の授業につき授業時間外に費やした平均時間
- 問 7 この授業の達成目標に到達できた
- 問 8 授業内容に興味をもて学習意欲が増した

○教員の授業の進め方や教え方について

- 問 9 授業に対する教員の熱意を感じた
- 問10 教員は学びやすい環境(私語への注意等)をつくるように努めていた
- 問11 授業は学生の理解度を考慮しながら進められた
- 問12 重要なところを強調して授業が進められた
- 問13 教科書、参考書、プリントなどは授業の内容を理解するうえで有効であった
- 問14 板書の仕方、スライドの使い方は適切であった
- 問15 声の大きさ・マイクの使い方は適切であった
- 問16 質問や課題、小テストに対する適切なフィードバックが十分に行われた
- 問17 シラバスで示された達成目標、授業計画、成績評価基準に沿って行われていた

○全体的にみて

- 問18 この授業の良かった点があれば、記入してください
- 問19 この授業の改善してほしい点があれば、記入してください

○モデルコアカリキュラムについて（薬学部のみ）

- 問20 シラバス記載の薬学モデルカリキュラムに沿って授業が進められた

○遠隔授業又は遠隔・対面併用授業について

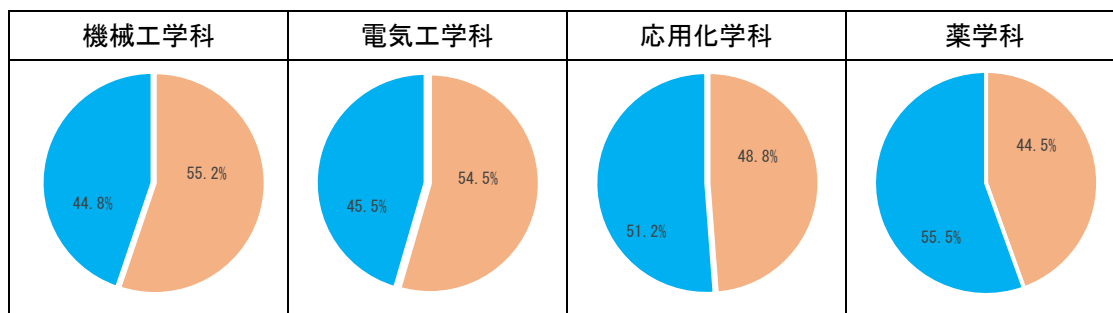
- 問21 板書・講義内資料は見やすかった
- 問22 授業の進行スピードは適切であった
- 問23 質問は容易にできたか
- 問24 音声は聞き取りやすかったか
- 問25 集中して授業を視聴できたか
- 問26 講義の録画は見直したか
- 問27 今後もこの形態で授業をしたほうが良いと思うか

(2) 授業アンケート結果

【令和4年度前期】

① 回答率

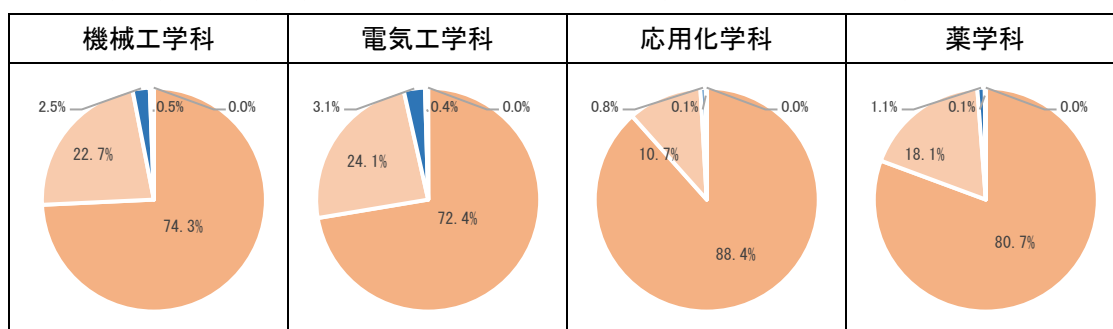
■ 回答あり ■ 回答なし



② 各項目の回答

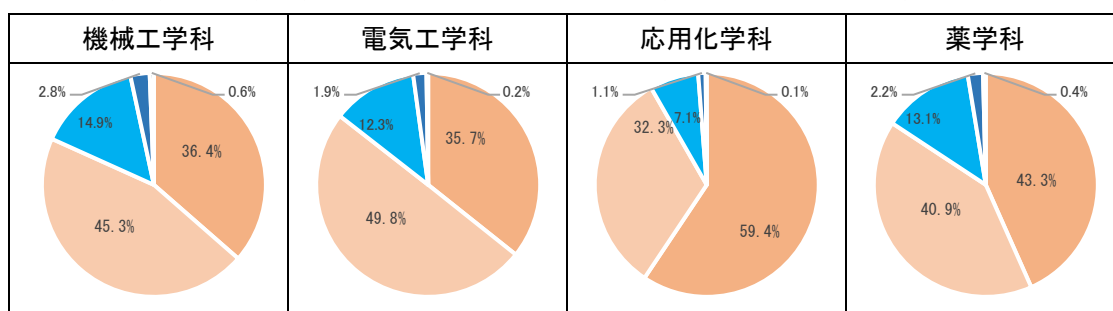
問1 この授業によく出席した

■ 強くそう思う ■ そう思う ■ どちらともいえない ■ そう思わない ■ 全くそう思わない



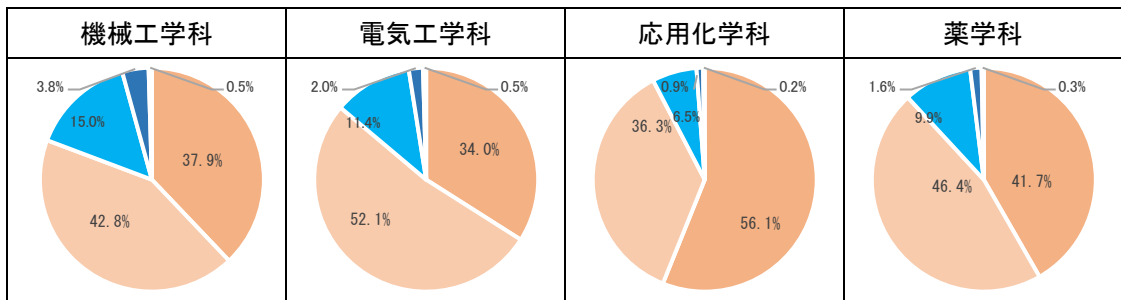
問2 この授業のために予習、復習、質問などをして意欲的に取り組んだ

■ 強くそう思う ■ そう思う ■ どちらともいえない ■ そう思わない ■ 全くそう思わない



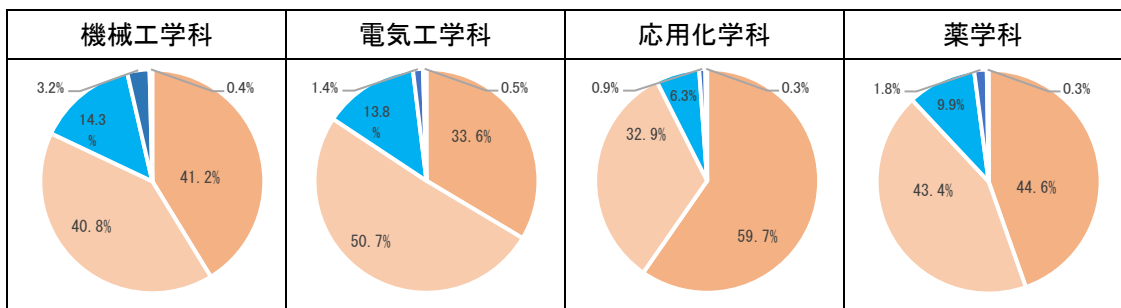
問3 授業内容をよく理解できた

■強く思う ■思う ■どちらともいえない ■そう思わない ■全くそう思わない



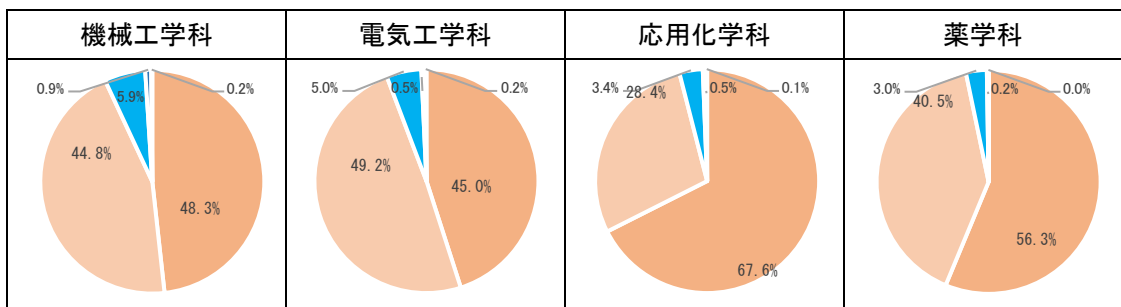
問4 この授業内容に興味をもて学習意欲が増した

■強く思う ■思う ■どちらともいえない ■そう思わない ■全くそう思わない



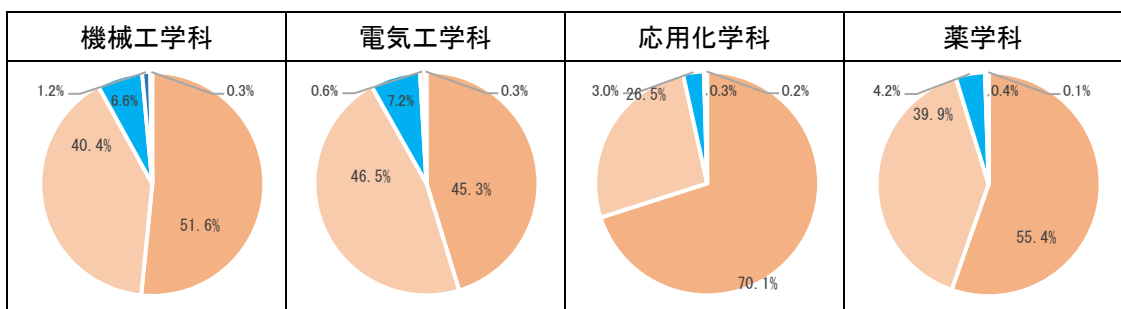
問5 シラバスの記載どおりに講義は進められた

■強く思う ■思う ■どちらともいえない ■そう思わない ■全くそう思わない



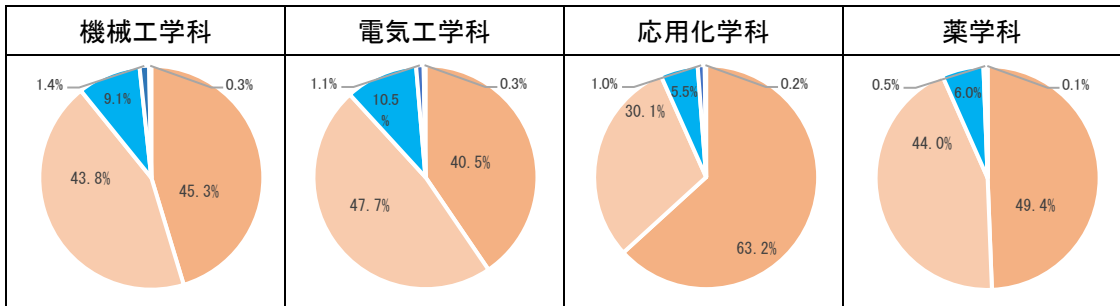
問6 授業に対する教員の熱意を感じた

■強く思う ■思う ■どちらともいえない ■そう思わない ■全くそう思わない



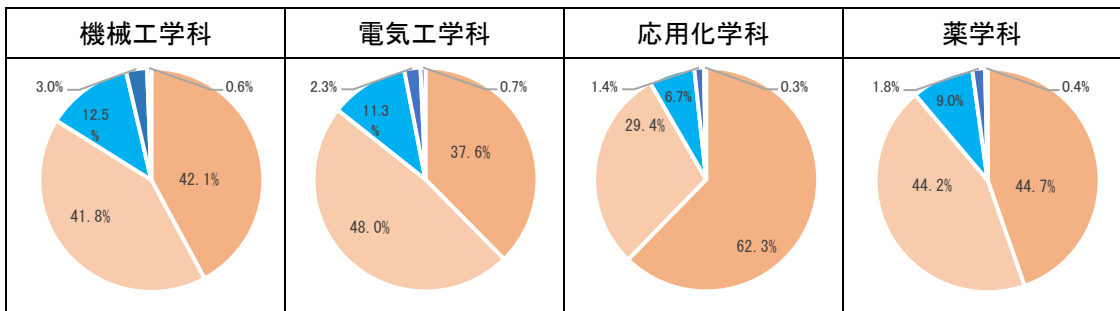
問7 教員は学びやすい環境(私語、遅刻、授業中の出入りなどへの注意)をつくるように努めていた

■ 強くそう思う
 ■ そう思う
 ■ どちらともいえない
 ■ そう思わない
 ■ 全くそう思わない



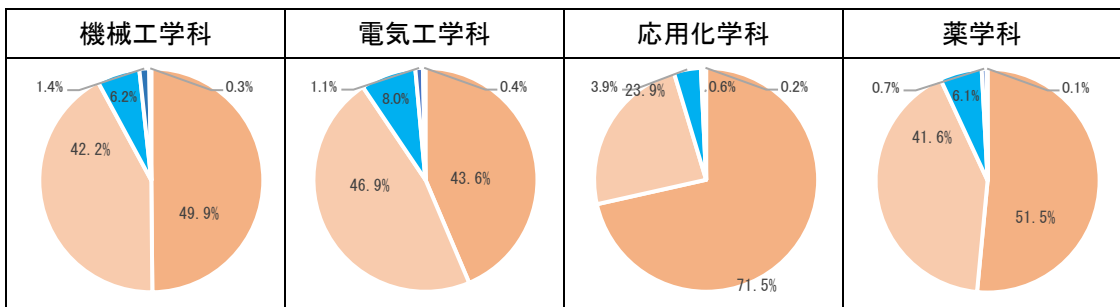
問8 授業は学生の理解度を考慮しながら進められた

■ 強くそう思う
 ■ そう思う
 ■ どちらともいえない
 ■ そう思わない
 ■ 全くそう思わない



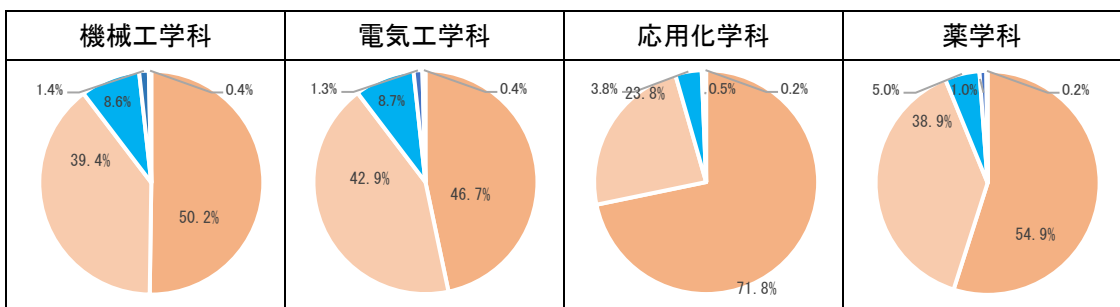
問9 重要なところを強調して授業が進められた

■ 強くそう思う
 ■ そう思う
 ■ どちらともいえない
 ■ そう思わない
 ■ 全くそう思わない



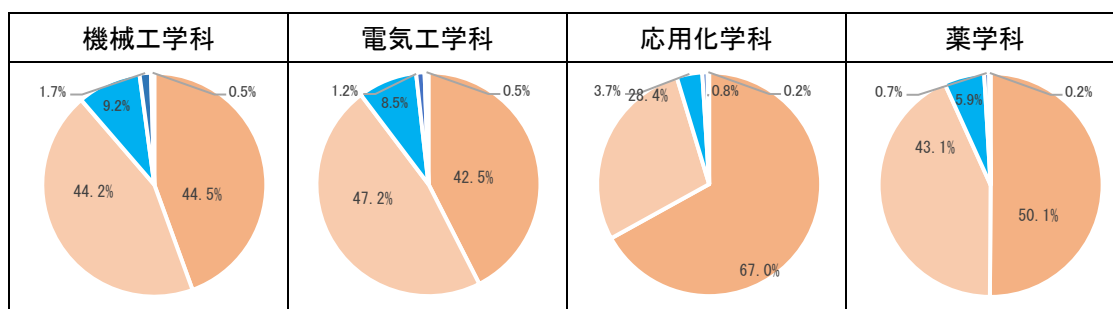
問10 教科書、参考書、プリントなどは授業の内容を理解するうえで有効であった

■ 強くそう思う
 ■ そう思う
 ■ どちらともいえない
 ■ そう思わない
 ■ 全くそう思わない



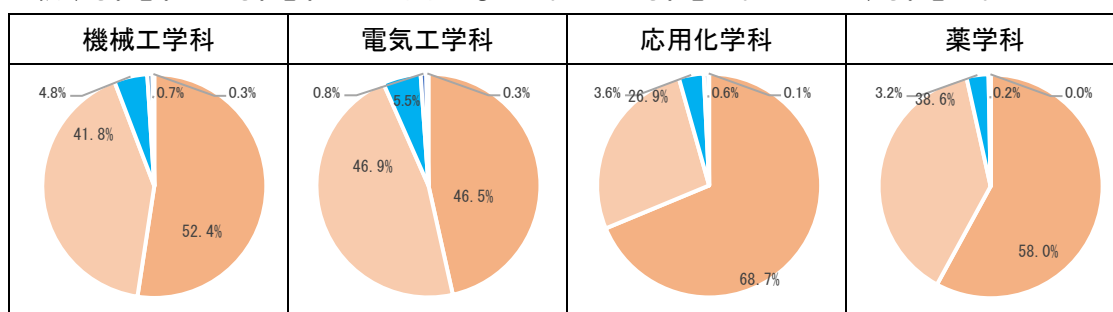
問11 板書の仕方、スライドの使い方は適切であった

■ 強くそう思う
 ■ そう思う
 ■ どちらともいえない
 ■ そう思わない
 ■ 全くそう思わない



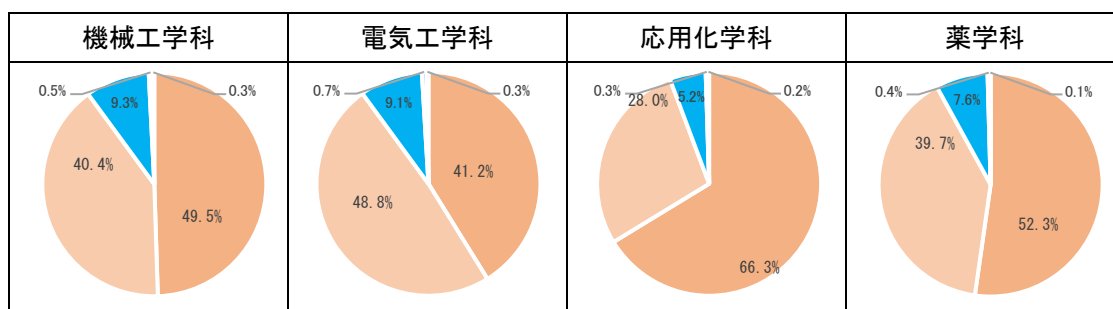
問12 声の大きさ・マイクの使い方は適切であった

■ 強くそう思う
 ■ そう思う
 ■ どちらともいえない
 ■ そう思わない
 ■ 全くそう思わない



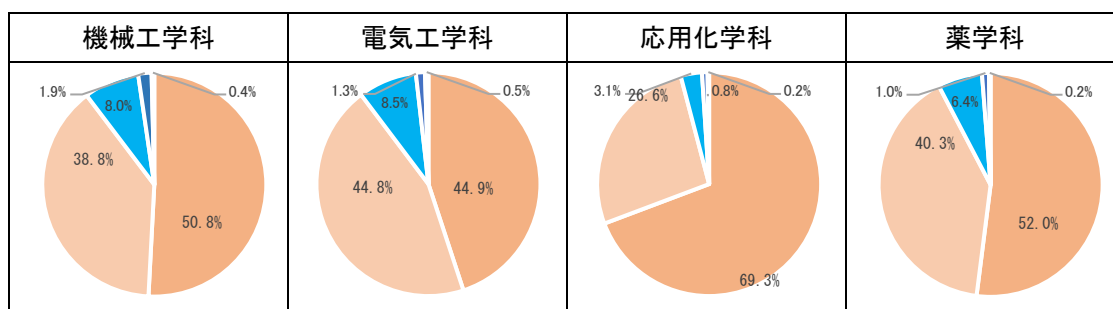
問13 質問に対する教員の対応は適切であった

■ 強くそう思う
 ■ そう思う
 ■ どちらともいえない
 ■ そう思わない
 ■ 全くそう思わない



問14 この授業に良い印象を持った

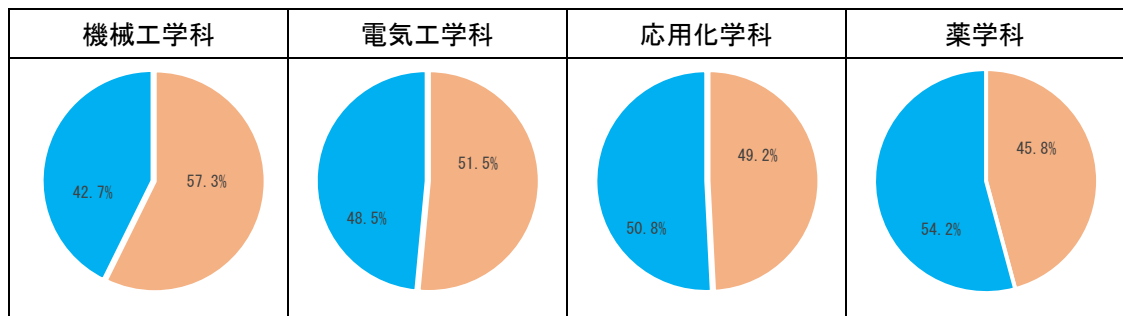
■ 強くそう思う
 ■ そう思う
 ■ どちらともいえない
 ■ そう思わない
 ■ 全くそう思わない



【令和4年度後期】

① 回答率

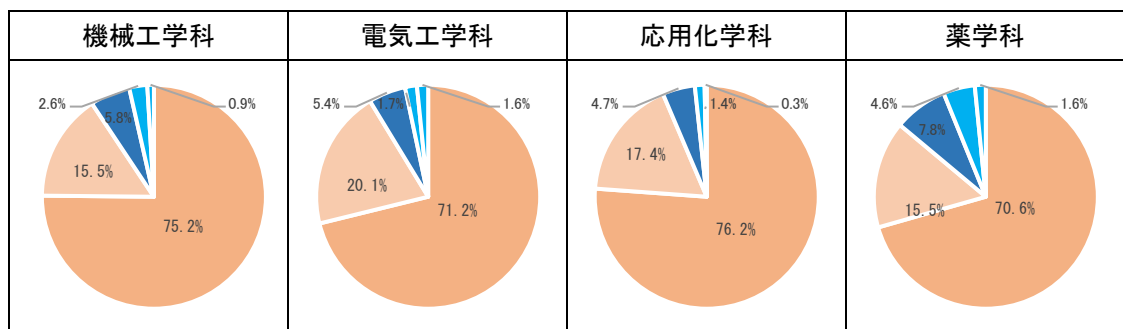
回答あり 回答なし



② 各項目の回答

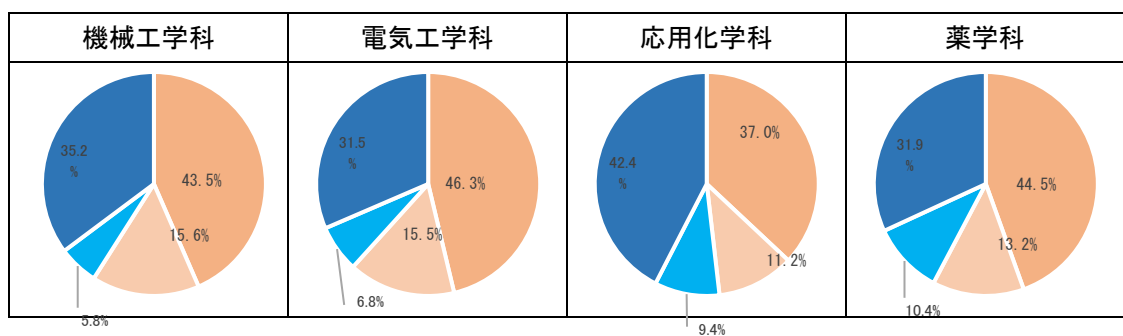
問1 授業の欠席回数

0回 1回 2回 3回 4回以上



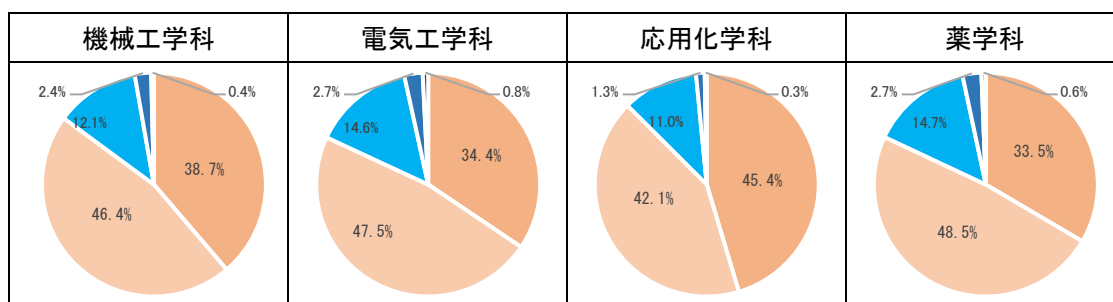
問2 欠席した主な理由

体調不良 寝坊 用事 その他



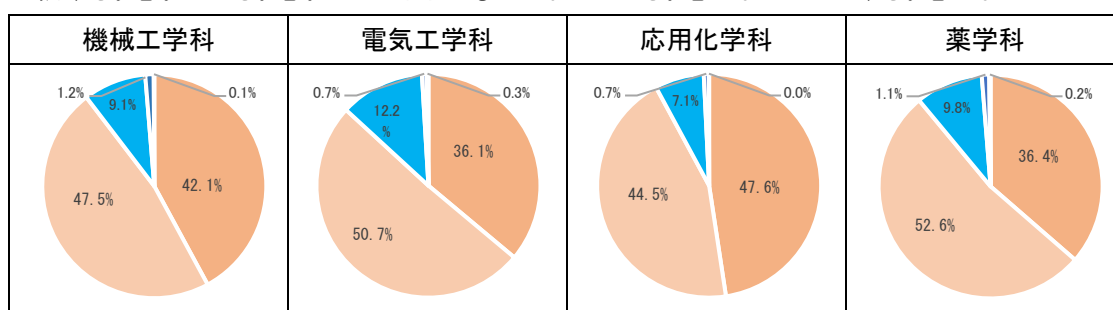
問3 授業の選択や予習復習などにシラバスを活用した

■強くそう思う ■そう思う ■どちらともいえない ■そう思わない ■全くそう思わない



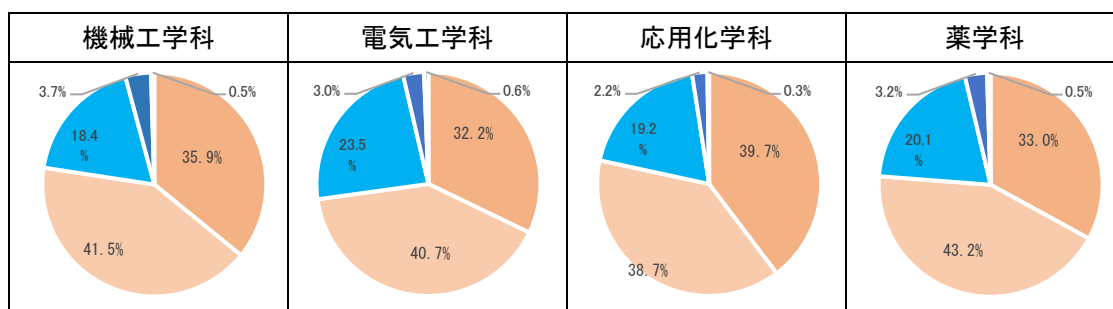
問4 授業の達成目標や成績評価基準を把握していた

■強くそう思う ■そう思う ■どちらともいえない ■そう思わない ■全くそう思わない



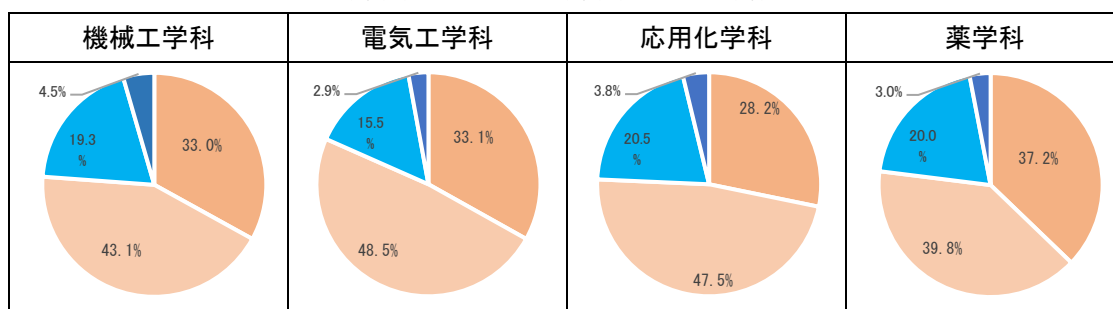
問5 質問をする、意見を述べるなど、授業に積極的に参加した

■強くそう思う ■そう思う ■どちらともいえない ■そう思わない ■全くそう思わない



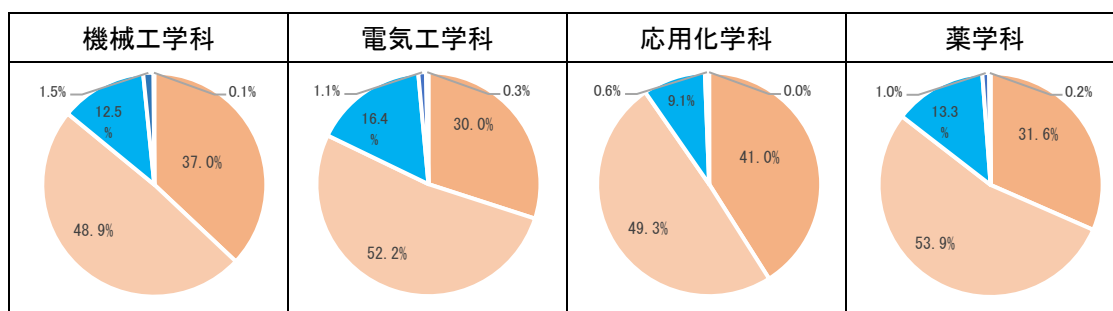
問6 予習復習や課題のために、1回の授業につき授業時間外に費やした平均時間

■ほとんどしていない ■1時間未満 ■1～3時間未満 ■3時間以上



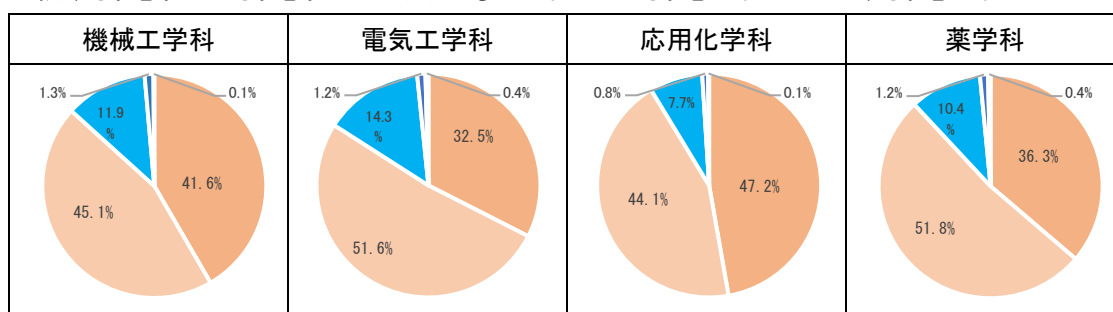
問7 この授業の達成目標に到達できた

■強く思う ■そう思う ■どちらともいえない ■そう思わない ■全くそう思わない



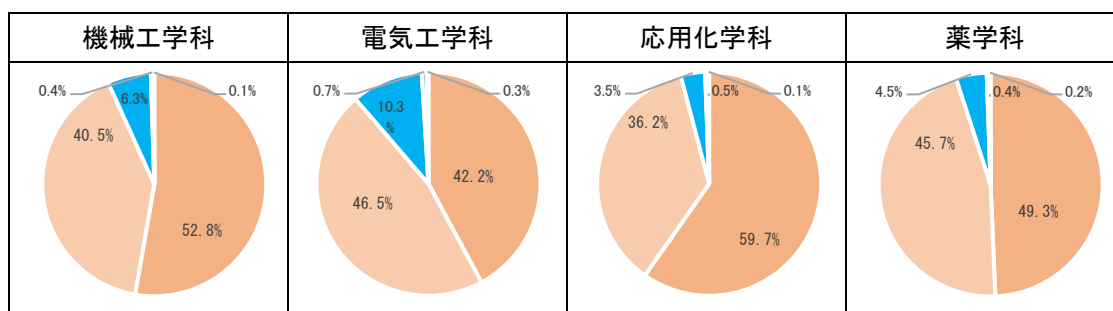
問8 授業内容に興味をもて学習意欲が増した

■強く思う ■そう思う ■どちらともいえない ■そう思わない ■全くそう思わない



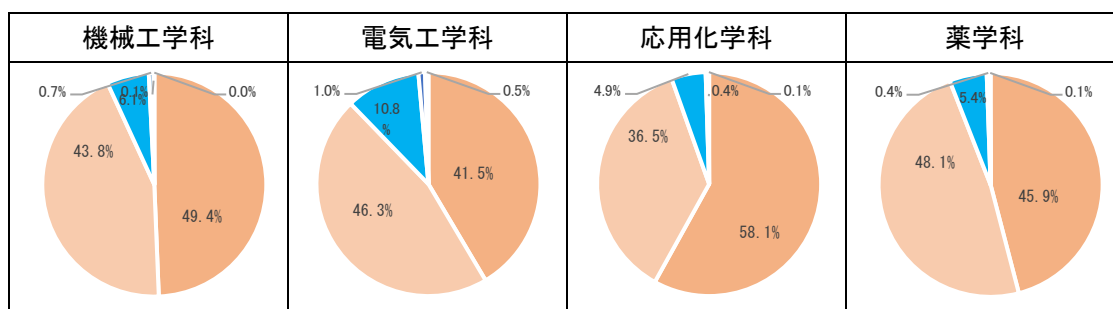
問9 授業に対する教員の熱意を感じた

■強く思う ■そう思う ■どちらともいえない ■そう思わない ■全くそう思わない



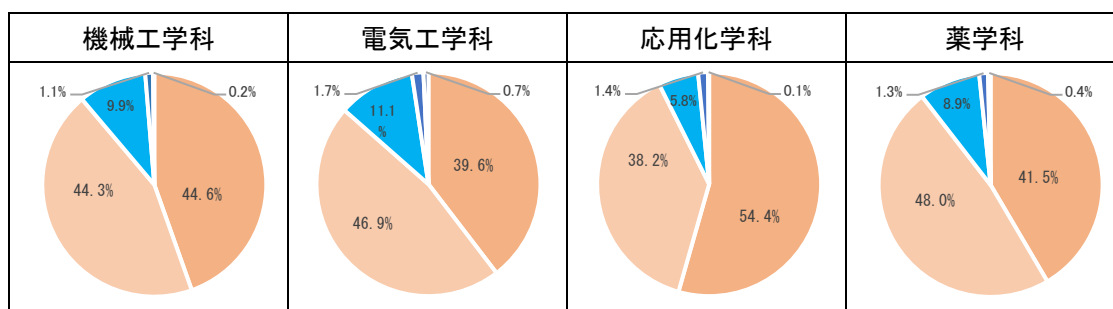
問10 教員は学びやすい環境(私語への注意等)をつくるように努めていた

■強く思う ■そう思う ■どちらともいえない ■そう思わない ■全くそう思わない



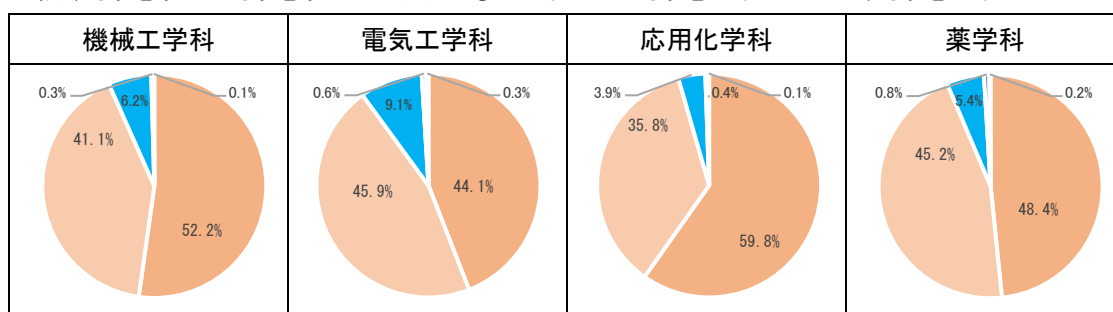
問11 授業は学生の理解度を考慮しながら進められた

■ 強くそう思う
 ■ そう思う
 ■ どちらともいえない
 ■ そう思わない
 ■ 全くそう思わない



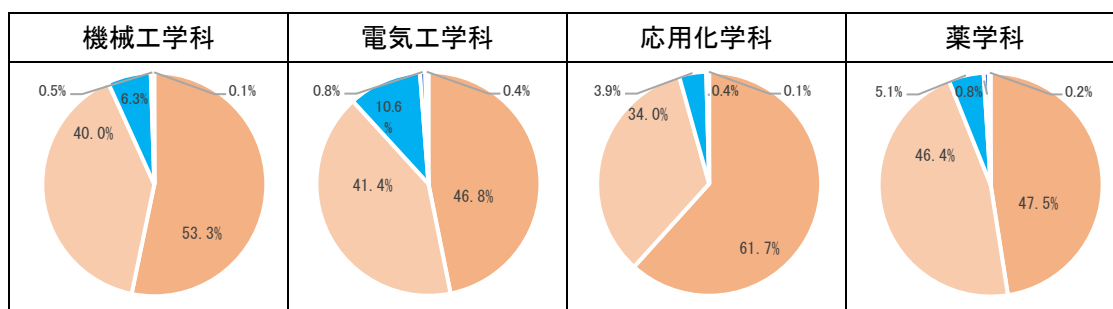
問12 重要なところを強調して授業が進められた

■ 強くそう思う
 ■ そう思う
 ■ どちらともいえない
 ■ そう思わない
 ■ 全くそう思わない



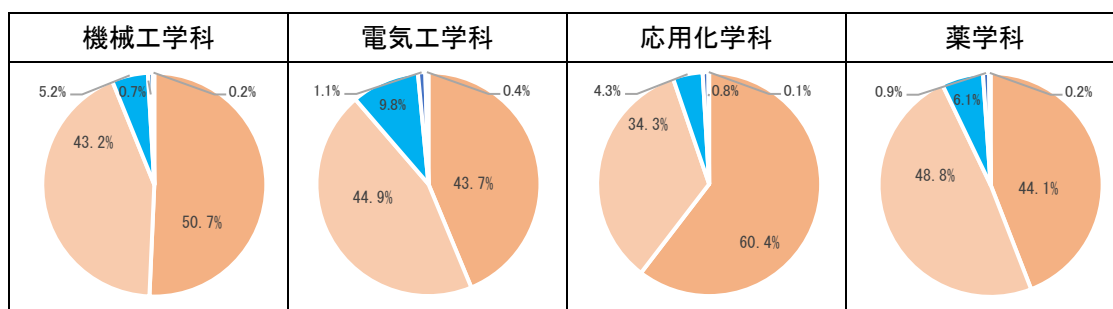
問13 教科書、参考書、プリントなどは授業の内容を理解するうえで有効であった

■ 強くそう思う
 ■ そう思う
 ■ どちらともいえない
 ■ そう思わない
 ■ 全くそう思わない



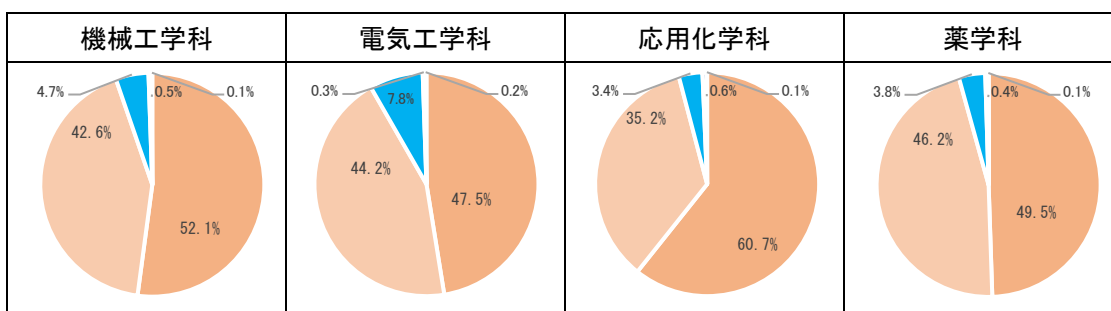
問14 板書の仕方、スライドの使い方は適切であった

■ 強くそう思う
 ■ そう思う
 ■ どちらともいえない
 ■ そう思わない
 ■ 全くそう思わない



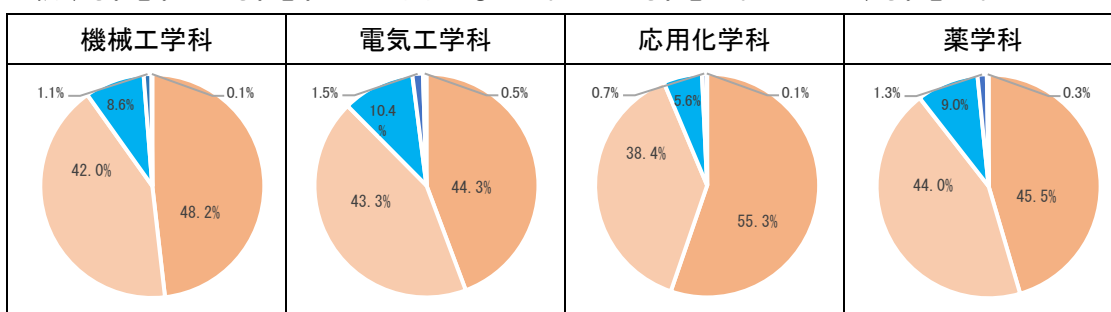
問15 声の大きさ・マイクの使い方は適切であった

■ 強く思う ■ そう思う ■ どちらともいえない ■ そう思わない ■ 全く思わない



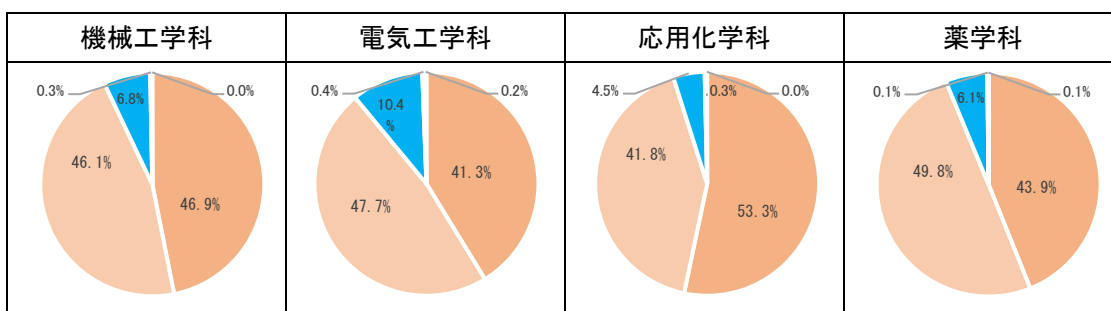
問16 質問や課題、小テストに対する適切なフィードバックが十分に行われた

■ 強く思う ■ そう思う ■ どちらともいえない ■ そう思わない ■ 全く思わない



問17 シラバスで示された達成目標、授業計画、成績評価基準に沿って行われていた

■ 強く思う ■ そう思う ■ どちらともいえない ■ そう思わない ■ 全く思わない



(3) 授業アンケート〔前期〕実施結果

① 前期実施日程

アンケート回答期間	令和4年7月19日（火）～8月6日（土）
結果公開期間	令和4年10月1日（金）～

② 前期実施結果

	工学部			薬学部	合計
	機械工学科	電気工学科	応用化学科	薬学科	
開講科目数 A	68	66	72	65	271
実施科目数 B	68	66	72	65	271
実施率 B/A	100%	100%	100%	100%	100%
履修学生数 C	2467	2430	3507	6487	14891
回答数 D	1361	1325	1710	2886	7282
回答率 D/C	55.2%	54.5%	48.8%	44.5%	48.9%

(4) 授業アンケート〔後期〕実施結果

① 後期実施日程

アンケート回答期間	令和5年1月10日（火）～2月4日（土）
結果公開期間	令和4年3月23日（水）～

② 後期実施結果

	工学部			薬学部	合計
	機械工学科	電気工学科	応用化学科	薬学科	
開講科目数 A	61	63	66	60	250
実施科目数 B	61	63	66	60	250
実施率 B/A	100%	100%	100%	100%	100%
履修学生数 C	2130	2295	3276	5444	13145
回答数 D	1221	1182	1612	2492	6507
回答率 D/C	57.3%	51.5%	49.2%	45.8%	49.5%

(5) 授業アンケート結果への対応

アンケートの集計結果に対し、授業担当教員から学生にコメントを提出することができます。授業担当教員からのコメントは授業アンケート結果に付記されて開示されます。また、授業アンケートで評価の平均が3.0未満の項目があった場合や、自由記入欄で「授業で改善してほしい点」が書かれていた場合は、「教育改善報告書」をFD委員会に提出することとしています。

2 教育効果の自己点検評価

授業担当教員は、授業科目の採点表の作成と同時に、成績評価の割合、シラバスの遵守、試験難易度の適正評価、教授法の改善について「教育効果測定結果報告書」に自己点検結果を記載し FD 委員長に提出を義務付けている。

(1) 自己点検項目

山陽小野田市立山口東京理科大学教育効果自己点検項目
基準 1. 成績評価への取組み (1) 合格率 65%以上を満たしていますか。 (2) 成績評価はシラバス記載の成績評価法に則っていますか。 (3) 成績評価のため、試験・レポート点や平常点等の成績配点表を作成しましたか。 (4) 他教員が点検した場合でも、成績配点表等は明瞭で分かり易いと思いますか。
基準 2. 教育改善への取組み (1) 成績評価の結果、試験問題やレポート課題等の難易度は最適であると考えていますか。 (2) 成績評価の結果、教授法を改善して学生の理解度を高めようと考えていますか。
基準 3. 再試験への対応 (1) 再試験の予定はありますか。 (2) 再試験の有無や評価法がシラバスに明記されていますか。

(2) 合格率指標 65%未満の科目

① 工学部 機械工学科

合格率	受講数	合格数	授業科目名
18%	17	3	ドイツ語 1
47%	45	21	機械数学 2
57%	59	34	機械力学及び演習

② 工学部 電気工学科

合格率	受講数	合格数	授業科目名
46%	50	23	電気数学
50%	10	5	ドイツ語 1
61%	38	23	電気電子回路演習

③ 工学部 応用化学科

合格率	受講数	合格数	授業科目名
58%	12	7	ドイツ語 1

④ 薬学部 薬学科

合格率	受講数	合格数	授業科目名
該当なし			

3 成績不振学生の早期発見・早期ケア

学修環境や学生生活になじめない等、様々な理由により成績が振るわず、授業に出席できないといった状況に陥っている学生に対し、書面による勉学勧告を学期毎に行うとともに、学習ガイダンスとチューターによる個別面談を通じて状況を直接確認し、改善に向けた方策を互いに模索しながら修学意欲を回復し再起を促し、充実した大学生活を送ることができるようにしています。

(1) 工学部 勉学勧告基準

学年	判定時期	勉学勧告
1 年生	前期終了時点	10 単位未満
	後期終了時点	20 単位未満
2 年生	前期終了時点	50 単位未満
	後期終了時点	66 単位未満
3 年生	前期終了時点	90 単位未満
	後期終了時点	112 単位未満
3 年原級生	前期終了時点	100 単位未満
	後期終了時点	112 単位未満
4 年生	前期終了時点	4 年次必修科目を除く卒業要件未達成者
	後期終了時点	卒業要件未達成者

(2) 薬学部 勉学勧告基準

学年	判定時期	勉学勧告基準
1 年生	前期終了時点	進級要件科目(必修科目)3 科目以上不合格
	後期終了時点	1 年次必修科目 20 科目のうち 18 単位以上修得していない者。
2 年生	前期終了時点	進級要件科目(必修科目)3 科目以上不合格
	後期終了時点	2 年次必修科目 23 科目のうち 21 単位以上修得していない者。
3 年生	前期終了時点	進級要件科目(必修科目)3 科目以上不合格
	後期終了時点	3 年次必修科目 23 科目のうち 21 単位以上修得していない者
4 年生	前期終了時点	進級要件科目(必修科目)3 科目以上不合格
	後期終了時点	4 年終了時まで学科が指定する 169 単位以上修得していない者。

(3) 成績不振学生数（勉学勧告者数）

年度・学期 学科・学年		平成 30 年度		令和元年度		令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
工学部 機械工学科	1 年	5	2	2	4	1	1	1	1	0	1
	2 年	6	9	4	4	6	5	6	5	6	7
	3 年	30	17	24	19	11	6	10	12	10	10
	4 年	24	2	9	0	9	0	16	0	3	0
	計	65	30	39	27	27	12	33	18	19	18

- 1 年生の成績不振者は減少している。
- 2 年生の成績不振者は横ばいである。
- 3 年生の成績不振者は減少傾向にあったが、近年再び増加傾向にある。

年度・学期 学科・学年		平成 30 年度		令和元年度		令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
工学部 電気工学科	1 年	1	2	1	1	1	3	4	4	6	4
	2 年	10	6	6	7	6	7	3	4	7	7
	3 年	25	16	19	13	11	8	14	15	9	10
	4 年	9	0	12	0	12	0	4	0	6	1
	計	45	24	38	21	30	18	25	23	28	22

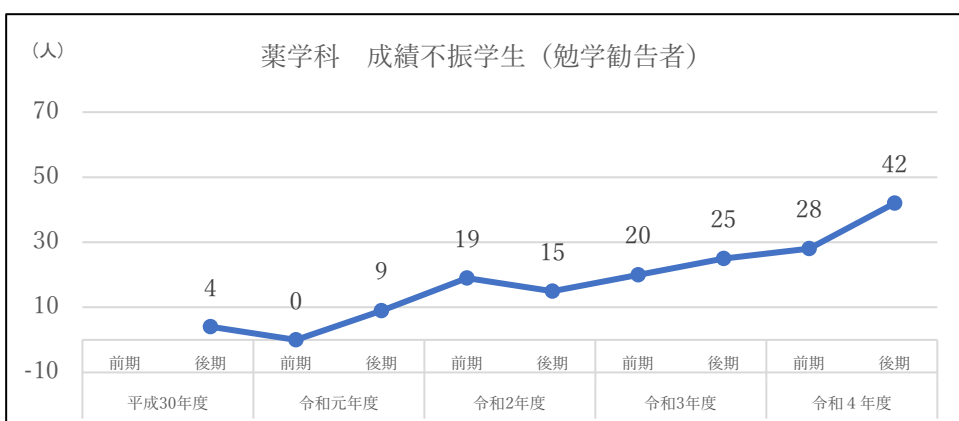
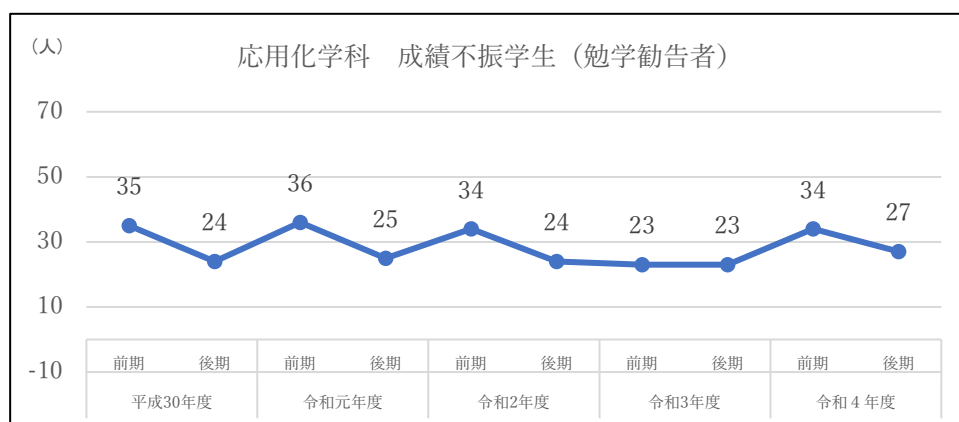
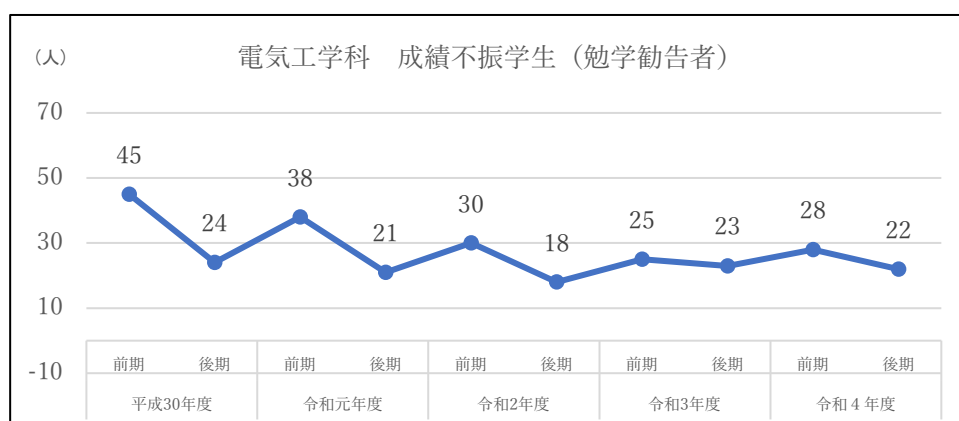
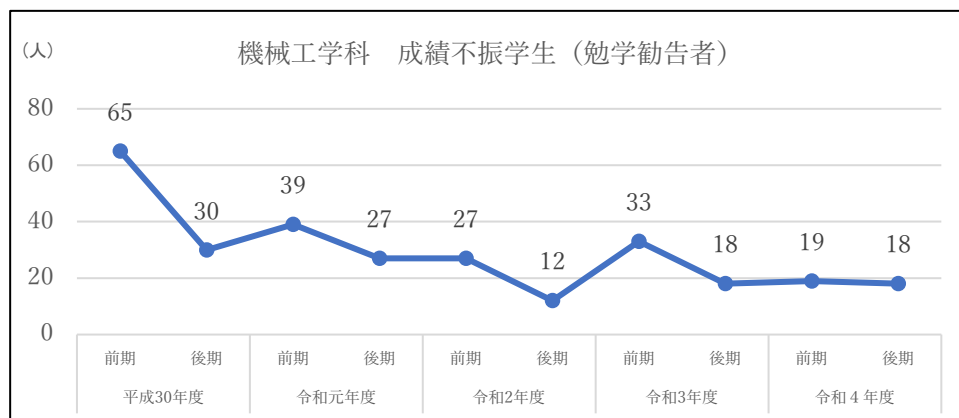
- 1 年生の成績不振者は増加傾向である。
- 2 年生の成績不振者は横ばいである。
- 3 年生の成績不振者は減少傾向にある。

年度・学期 学科・学年		平成 30 年度		令和元年度		令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
工学部 応用化学科	1 年	1	2	4	4	1	2	2	4	2	1
	2 年	0	5	8	10	6	11	7	6	12	10
	3 年	20	14	9	11	12	11	9	13	12	12
	4 年	14	3	15	0	15	0	5	0	8	4
	計	35	24	36	25	34	24	23	23	34	27

- 2 年生の時点で成績不振者となる傾向が見られる。
- 3 年生の成績不振者は横ばいである。
- 4 年生前期の成績不振者が多いが、後期には回復している。

年度・学期 学科・学年		平成 30 年度		令和元年度		令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
薬学部 薬学科	1 年	-	4	-	3	3	8	7	11	0	6
	2 年	-	-	-	6	12	5	7	7	16	23
	3 年	-	-	-	-	4	2	6	7	12	9
	4 年	-	-	-	-	-	-	0	0	0	4
	5 年	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0
	計		4	0	9	19	15	20	25	28	42

- 1 年生の成績不振者は減少傾向である。
- 2 年生の成績不振者は増加傾向である。
- 3 年生の成績不振者は増加傾向である。
- 5 年生の成績不振者は発生していない。



IV. 教育課程及び授業内容の点検・改善に関すること

1 教育課程の体系化

学位授与の方針と教育課程編成・実施の方針を基に、学生自身がカリキュラムの体系的・順次性を理解し、自らの学びを主体的に組み立てることを主眼に、学生が身につけることが期待される知識・技能・態度と授業科目との間の対応関係を示す表である「カリキュラム・マップ」と、科目の履修順序と科目間のつながりをフローチャートとして図示した履修系統図「カリキュラム・ツリー」を作成し、学生に配付する「学修簿」や大学ホームページに掲載し、学修ガイダンスにて体系的な履修を促すよう指導を行っています。

また、授業科目に適切な番号を付し、学問の分類や学修の段階や順序等を示す「ナンバリング」を導入しています。

○ カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリー

<https://www.socu.ac.jp/departments/syllabus.html>

2 学修成果の可視化

本学における教育活動の改善・充実を目的として、三つの方針（学位授与方針、教育課程編成・実施方針、入学者受入方針）に基づく各種取り組み状況の評価・検証システムを整え、学位授与方針に定める学生が修得すべき資質・能力等について、大学全体（機関）、教育課程（学部・学科）、授業科目の充実度を個別に把握・測定し、その達成状況の評価・検証する「学修成果に対する評価の方針（アセスメント・ポリシー）」を導入しました。

○ 学修成果に対する評価の方針（アセスメント・ポリシー）

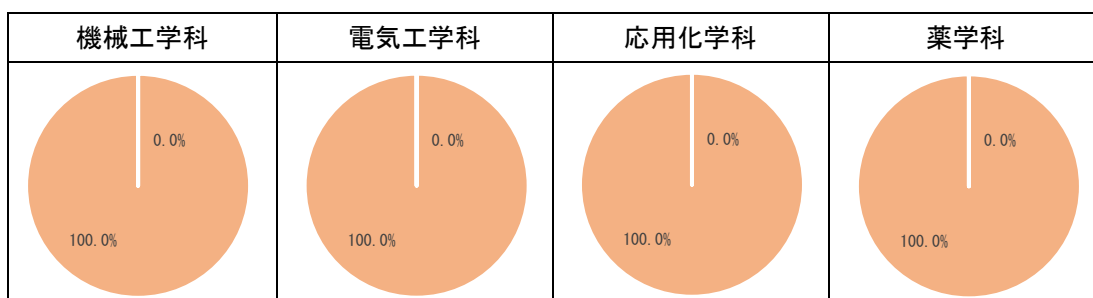
https://www.socu.ac.jp/uploads/images/04_assessment.pdf

3 シラバスの点検

シラバスは担当教員と学生との間の一種の契約書です。授業担当者は、シラバス通りに授業を行い、シラバスに書かれた方法と基準に従って授業評価を行います。年度始めに、学生は履修したい科目を登録しなければなりません。その時点で、シラバスに書かれたことに同意したとみなされます。FD委員会は、シラバスについて、授業を行うための「授業計画書」という視点だけではなく、学生が学習計画を立てるうえで十分な情報が提供されているかを検証しています。

(1) シラバス作成状況（令和4年度）

■あり ■なし



※教職課程の授業科目を除く

4 教育課程の改訂と授業科目の見直し

F D委員会では、カリキュラム改訂のための体制はどうあるべきか、環境変化、学生の変化に鋭敏に対応した効果的な人材育成を行うカリキュラムを追求し、教育課程の改訂が必要となる場合、授業科目の見直しが必要となる場合は、学長に提言を行っています。令和4年度は次のような取り組みを行いました。

(1) 授業科目の見直し

- ① 教育内容の充実を図ることを目的に、機械工学科において専門科目「線形代数Ⅱ」を新規開講した。
- ② 教育内容の充実を図ることを目的に、機械工学科において専門科目「CAE演習」を新規開講した。
- ③ 専門科目「電気電子工学通論1」について、授業内容を直裁的に表現するために「電気電子工学通論」に科目名称を変更した。
- ④ 専門科目「電気電子工学通論2」について、授業内容を直裁的に表現するために「知的情報処理」に科目名称を変更した。
- ⑤ 一般科目「応用倫理学」について、授業内容を直裁的に表現するために「技術者倫理」に科目名称を変更することを検討。
- ⑥ 一般科目「ドイツ語」の受講者が約200名（令和3年度）となり、ドイツ語以外の外国語の導入を検討。
- ⑦ Science、Technology、Engineering、Mathematicsを範疇とする教育分野STEMに、Arts（芸術）を加えたSTEAM教育を充実するために、一般科目に「芸術」を加えることを検討。

(2) 選択科目の履修者僅少科目の調査

選択科目について、履修者が少ない科目の調査を行い、授業時間割の見直しと科目の統廃合を含めた教育課程の改善を検討しています。

(3) 受講者僅少科目(15人以下)（令和4年度）

① 機械工学科

受講者数	授業科目名	区分
5	科学英語・発表技術	専門科目
7	メカトロニクス	専門科目
9	機器制御	専門科目
10	燃焼工学	専門科目

② 電気工学科

受講者数	授業科目名	区分
1	メカトロニクス	専門科目
3	電力系統工学	専門科目
6	インターンシップ・職業体験	専門科目
7	基礎化学	専門科目
12	科学英語・発表技術	専門科目

③ 応用化学科

受講者数	授業科目名	区分
4	経営工学	専門科目
11	インターンシップ・職業体験	専門科目
12	生物物理学	専門科目
14	特許法	専門科目

④ 薬学科

15人以下の授業科目なし

⑤ 一般科目

受講者数	授業科目名	区分
1	健康スポーツⅡ	一般科目
11	教養の系譜	一般科目

V. F Dに関する講演会・研修会等に関すること

1 F D研修会

授業内容及び方法の改善を図るための組織的な研修の一環として、外部講師によるF D研修会を企画し開催しています。令和4年度のF D研修会は次のとおりです。

(1) F Dセミナー

演 題：ハラスメント防止について（教員と学生との距離の取り方）

講 師：鈴木法律事務所 鈴木 朋絵 氏

開催日時：令和4年7月15日（金） 14時45分～15時45分

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学7号館1階711教室

参加人数：77名（オンデマンド視聴を含む）

(2) F Dセミナー

演 題：コロナ禍におけるモノづくりについて

講 師：株式会社ひびき精機 専務取締役 松山 功 氏

開催日時：令和4年12月22日（木） 15時～16時30分

場 所：山陽小野田市立山口東京理科大学7号館1階711教室

参加人数：50名 ＋学生100名

2 東京理科大学・山口東京理科大学合同 F D 研修会

本学と姉妹校である東京理科大学と、教職員の資質向上と、第三者評価に向けての取り組みの情報共有、関連施策及び業務の改善に寄与することを目的に、薬学部関連教職員合同 F D 研修会を令和 2 年度から実施しています。

令和 4 年度の合同 F D 研修会は、次のとおり実施しました。

(1) 第 1 回合同 F D 研修会

開催日時：令和 5 年 1 月 13 日(金) 10 時 00 分～11 時 30 分

場 所：オンライン（東京理科大学は対面＋オンライン）

講演①

テ ー マ：薬剤師を取り巻く状況と改訂モデル・コアカリキュラムについて

講 師：東京理科大学 薬学部准教授 真野 泰成 氏

講演②

テ ー マ：薬学部 5, 6 年次教育について（卒業研究発表及び実務実習）

講 師：東京理科大学 薬学部教授 西川 元也 氏

東京理科大学 薬学部准教授 嶋田 修治 氏

パネルディスカッション

テ ー マ：山口東京理科大学の現状と課題

パネリスト：山口東京理科大学 薬学部長 武田 健 他

参加者数：67 名（東京理科大学 36 名、山口東京理科大学 31 名）

(2) 第 2 回合同 F D 研修会

開催日時：令和 5 年 2 月 21 日(火) 10 時～11 時 30 分

場 所：オンライン（東京理科大学は対面＋オンライン）

演 題：製薬企業における薬学データサイエンス教育の現状等について

講 師：第一三共株式会社 研究開発本部研究統括部 国本 亮 氏

参加者数：63 名（東京理科大学 34 名、山口東京理科大学 29 名）

VI. その他FDに関すること

1 単位の実質化

(1) 工学部における履修登録単位の上限（CAP制）

単位の過剰登録を防ぐため、工学部では、1年間に履修登録できる単位の上限を46単位に設定し、学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修することとしています。

なお、年間45単位以上を修得した者は、翌年度50単位を上限として履修を認めています。令和4年度に履修登録単位の上限を超えて履修を認めた学生は次のとおりです。

		機械工学科	電気工学科	応用化学科
2年生	学 生 数	68	72	84
	46 単位超許可	44	46	52
	割 合（％）	64%	63%	61%
3年生	学 生 数	66	67	85
	46 単位超許可	35	27	33
	割 合（％）	53%	40%	38%
4年生	学 生 数	58	54	86
	46 単位超許可	3	3	3
	割 合（％）	5%	5%	3%

(2) 薬学部における単位の実質化

本学の薬学部では、授業科目の3割は大学独自の授業科目により構成され、残りの7割はモデル・コアの一般目標（GIO）を全て網羅するカリキュラムとなっています。特に、5年次と6年次は、実務実習と卒業研究が主となることから、150単位を超える単位数を4年次までに取得する必要があるため、履修科目の年間登録上限は設定していません。履修科目のほとんどが必修科目であることから、履修科目の年間登録上限は設けないものの、2年次までに一般科目を取得することを推奨するなど、学生の学習時間確保の方策に努めています。

令和4年度における薬学部の履修登録単位数は次のとおりです。

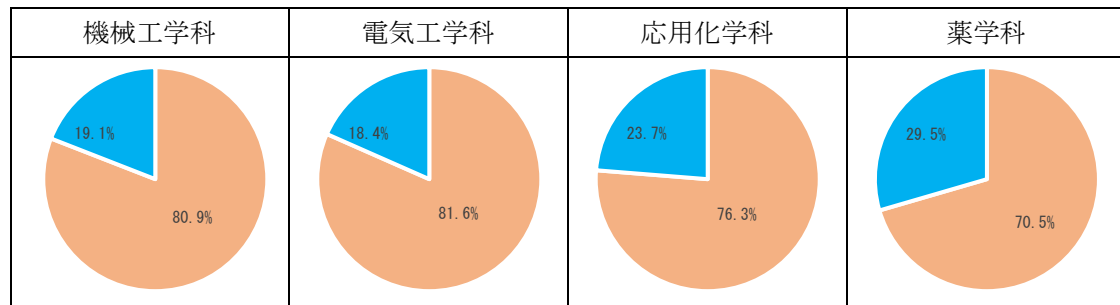
学年	学生数（人）	薬学部薬学科 履修登録単位数		
		平均値	最小値	最大値
1年生	127	45	8	52
2年生	118	46	7	53
3年生	112	51	4	62
4年生	132	32	23	43
5年生	103	22	22	24

(3) 授業外学習の明示

学生に対し事前に提示する授業計画（シラバス）に、教室で授業を行う講義内容に加え、学生が予習や復習など授業外において学習する具体的な内容を提示し、学生が主体的に授業のための事前及び事後学習を展開できるようにしています。

令和4年度のシラバスへの授業外学習の明示状況は次のとおりです。

■ 明示あり ■ 明示なし



2 GPA

GPA (Grade Point Average) は、学生が主体的・意欲的に学習するための指標です。成績表記 S、A、B、C、D のそれぞれに対応して評価ポイント GP=4、3、2、1、0 を与えさらに授業科目の単位の値を考慮してGPAを算出します。すべての履修科目の平均値としてGPAが算出され、成績通知書には履修科目のGPAが記載されます。

(1) GPAが高い授業科目 (3.0 以上)

① 機械工学科

GPA	授業科目名
3.20	プログラミング演習 1
3.25	経営工学
3.27	機械数学 1
3.39	設計製図 2
3.40	設計製図 1
3.45	センサ工学
3.71	CAD演習
3.72	研究入門セミナー
3.80	科学英語・発表技術
4.00	職業指導

② 電気工学科

GPA	授業科目名
4.00	職業指導

③ 応用化学科

GPA	授業科目名
3.15	応用化学入門
3.17	コンピュータ演習 1
3.20	有機化学演習
3.23	線形代数 1
3.24	有機工業化学
3.51	基礎化学
3.56	キャリア基礎

④ 薬学科

G P A	授業科目名
3.02	薬学概論
3.02	免疫学
3.05	物理・分析科学実習
3.08	総合医療薬学 2
3.08	薬剤学実習
3.10	バイオ医薬品
3.10	患者情報学
3.11	漢方概論
3.16	医療人入門
3.17	医療経済学
3.17	生薬学 2
3.18	健康ビッグデータ解析学
3.20	有機スペクトル解析実習
3.26	有機化学実習
3.33	基礎数理学
3.36	生薬学実習
3.38	ヒューマンコミュニケーション 2 演習
3.39	ヒューマンコミュニケーション 1 演習
3.40	生物系実習
3.40	山口県地域医療学 2
3.41	インシリコ創薬
3.44	山口県地域医療学 1
3.45	病院薬局実務実習
3.64	放射医科学
3.66	製剤学 2
3.67	バイオ・ケモインフォマティクス
3.72	情報リテラシー
3.76	薬学臨床事前実習
3.79	入門情報リテラシー

⑤ 一般科目

G P A	授業科目名	開講学部・学科
3.02	経済学	全学
3.06	キャリア基礎	工学部機械工学科
3.12	法学	全学
3.17	地域社会学	工学部
3.21	国際事情	全学
3.29	体育実習	工学部
3.32	健康スポーツ 1	薬学部
3.35	キャリア開発 1	工学部
4.00	日本語 1	工学部
4.00	日本事情 1	工学部

(2) G P Aが低い授業科目 (1.0 未満)

① 機械工学科

G P A	授業科目名
0.85	機械数学 2
0.87	コンピュータシステム

② 電気工学科

G P A	授業科目名
0.85	電気数学

③ 応用化学科

なし

④ 薬学科

なし

⑤ 一般科目

なし

3 情報教育（教育用ソフトウェア）の支援

令和4年度教育用ソフトウェアについて、各学部・研究科から予算要望する教育用ソフトウェアの募集を行い、次のとおりソフトウェアを導入しています。

(1) 教育用ソフトウェア一覧（令和4年度）

用 途	教育用ソフトウェア
統計解析ソフト	SAS
数値計算言語ソフト	MATLAB/Simulink
数学計算ソフト	Mathematica
数式作成ソフト	Math Type
化学・バイオ系ソフト	Chem Bio Office
量子化学計算ソフト	Gaussian
分子動力学計算ソフト	Amber
CADソフト	Creo Parametric
CAE解析ソフト	Ansys
論文独自性検証ソフト	iThenticate
コピペ判定支援ソフト	コピペルナー
Adobe 社製品	Adobe ETLA
Microsoft社製品	Office/Windows/Visual Studio

4 学習管理システムの活用

これまで、本学におけるアクティブ・ラーニングは、個々の教員の授業内での取組に任されてきましたが、eラーニングを効率的に行うための学習管理システム（Learning Management System）であるMoodleに授業の録画を掲載することが可能であるため、反転授業や、授業の予習・復習、授業の補助教材として、活用することができるようになりました。学生は時間や場所の制約を受けることなく授業コンテンツを閲覧することができるようになり、学生が主体的に授業に参加する対話型・双方向型の授業が増え、知識や学修成果をより定着させることができるようになりました。

本学では、新型コロナウイルス感染拡大防止を契機に、授業内容のデジタルコンテンツ化の推進と、これらを活用した新たな授業運営方法の検討を行っています。

○ 山陽小野田市立山口東京理科大学FD委員会規程

平成 28 年 4 月 1 日
規程第 138 号

(設置)

第 1 条 公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学業務規程(平成 28 年規程第 1 号)第 20 条の規定に基づき、山陽小野田市立山口東京理科大学(以下「本学」という。)の学長(以下「学長」という。)の諮問委員会として、本学に山陽小野田市立山口東京理科大学ファカルティ・ディベロップメント委員会(以下「FD 委員会」という。)を置く。

(目的)

第 2 条 FD 委員会は、教育の改善及び教授技能の向上に関し、組織的な調査及び研究を実施し、本学の教育の質的向上に貢献することを目的とする。

(審議事項)

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議し、必要な措置を行う。

- (1) 教授方法、教育内容・手段・環境等の点検及び改善に関すること。
- (2) 授業評価の実施に係る企画・運営に関すること。
- (3) 教育課程の点検及び改善並びに調整に関すること。
- (4) FD に関する講演会及び研修会等に関すること。
- (5) その他 FD に関する事項

(組織)

第 4 条 委員会は、次の委員をもって組織する。

- (1) 学部長
- (2) 学科主任
- (3) 共通教育センター長
- (4) 研究科長

2 委員長は、委員の互選によってこれを定める。

3 学長は、委員会の会議に出席して意見を述べることができる。

(招集及び議長)

第 5 条 委員会の会議は、委員長が招集し、その議長となる。ただし、委員長に事故があるときは、委員長のあらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(意見聴取)

第 6 条 社会の要求や学生の要望に適切に対応するために委員会が必要と認めたときは、委員会に委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(事務)

第 7 条 委員会の事務は、教務課において処理する。

附 則

この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

○ F D委員会構成員（令和5年6月1日現在）

委員長	和田 光弘	薬学部薬学科 学科主任
委 員	武田 健	薬学部長
委 員	吉田 和司	工学部機械工学科 学科主任
委 員	阿武 宏明	工学部電気工学科 学科主任
委 員	白石 幸英	工学部応用化学科 学科主任
委 員	福井 一彦	工学部数理情報科学科 学科主任
委 員	堤 千佳子	共通教育センター長
事務局	永岡 加代	学務部教務課長
事務局	中嶋 智久	学務部教務課係長